

中学校教諭授業力向上研修講座 家庭

講義

小中高の接続を意識した 教科経営の在り方



岩手県立総合教育センター
情報・産業教育担当 千田 満代

【1】新指導要領における小・中・高等学校の系統性の明確化

① 小・中同一の三つの内容

「A 家族・家庭生活」 「B 衣食住の生活」 「C 消費生活・環境」

※高校は四つの内容

「家庭基礎」…

「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」 「B 衣食住の生活の自立と設計」

「C 持続可能な消費生活・環境」 「D ホームプロジェクトと学校家庭・クラブ活動」

「家庭総合」…

「A 人の一生と家族・家庭及び福祉」 「B 衣食住の生活の科学と文化」,

「C 持続可能な消費生活・環境」 「D ホームプロジェクトと学校家庭・クラブ活動」



【1】新指導要領における小・中・高等学校の系統性の明確化

② 「生活の営みに係る見方・考え方」

自立し共に生きる生活の創造

家族・家庭生活

衣食住の生活

消費生活・環境

協力・協働	
健康・快適・安全	
生活文化の継承・創造	
持続可能な社会の構築	





【1】新指導要領における小・中・高等学校の系統性の明確化

③空間軸と時間軸の視点から学校段階別に学習対象を整理

		空間軸	時間軸
【高等学校】 共通教科 ◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。 ○生活を科学的に理解し、自立した生活者に必要な知識・技能を習得する。 ○生活の課題を解決するために、生活を科学的に探究し、生涯を見通して生活を創造する能力を育成する。 ○様々な年代の人とコミュニケーションを図り、主体的に地域社会に参画し、共に支え合う社会の実現に向けて家庭や地域の生活を創造しようとする実践的な態度を育成する。 ●「ホームプロジェクト」や「学校家庭クラブ活動」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。 ◎少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、子育て支援等の理解、高齢者の理解、生涯の生活設計、消費生活や環境に配慮したライフスタイルを確立するための意思決定、健康な食生活の実践、日本の生活文化の継承・創造等に関する学習を充実する。	社会	生涯を見通した生活	
	地域	これからの生活	
	【中学校】 ◇家庭分野の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。 ○家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ○生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、これからの生活を展望して生活を工夫し創造する能力を育成する。 ○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成する。 ●家庭や地域社会との連携を図り、「生活の課題と実践」等、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。 ◎少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭の機能の理解や、幼児、高齢者との交流等、消費生活や環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎、食事の役割や栄養・調理、日本の生活文化の継承等に関する学習を充実する。		
【小学校(高学年)】 ◇家庭科の見方や考え方を踏まえ、生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指す衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、以下の資質・能力を育成する。 ○日常生活に必要な基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ○生活の中から問題を見出して課題を設定し、その解決を目指して身に付けた知識・技能を活用し、生活をよりよくしようと工夫する能力を育成する。 ○家庭生活の大切さに気づき、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと実践的な態度を育成する。 ●家庭や地域との連携を図り、主体的に取り組む問題解決的な学習を充実する。 ◎少子高齢化等の社会の変化や持続可能な社会の構築、食育の推進に対応し、家庭生活と家族の大切さ等、消費生活や環境に配慮した生活の仕方、食事の役割や栄養・調理の基礎、日本の生活文化の大切さに気付く学習を充実する。			
【小学校(低・中学年)】 ○基本的な生活習慣や生活技能、身近な人々との接し方(家族や地域の様々な人々)、成長への喜び・成長を支えてくれた人々への感謝等(生活科) ○健康によい生活についての理解(健康に過ごすための明るさの調節や換気などの生活環境)、体の発育・発達についての理解(体をよりよく発育・発達させるための調和のとれた食事)(体育科) ○日常の生活や学習への適応及び健康・安全(基本的な生活習慣の形成、食育の観点で踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成等)(特別活動) ○節度・節制(基本的な生活習慣、節度ある生活)、家族愛、家庭生活の充実等(道徳) 等	家庭	現在・これまでの生活	

【2】社会の変化への対応

①家族・家庭生活に関する内容の充実

少子高齢化社会の進展に対応し、「A家族・家庭生活」では、幼児、高齢者 との関わり



②食育の推進に関する内容の充実

「B 衣食住の生活」の食生活において、例えば小学校の「ゆでる、炒める」に加え、中学校では「煮る、焼く、蒸す等」

【2】社会の変化への対応



③日本の生活文化に関する内容の充実

グローバル化に対応して、「B 衣食住の生活」において
和食、和服…例えばすだれ、急須、風鈴…生活文化の継承の大切さ

④自立した消費者の育成に関する内容の充実

持続可能な社会の構築に対応して、消費生活や環境に配慮した生活の
仕方（ライフスタイルの確立の基礎）に関する内容

【3】 知識及び技能を実生活で活用するための内容の充実

小学校…「A 家族・家庭生活」

(4) 家族・家庭生活についての課題と実践

＜2学年間で一つ又は二つ＞

中学校…「A 家族・家庭生活」

(4) 家族・家庭生活についての課題と実践

「B 衣食住の生活」

(7) 衣食住についての課題と実践

「C 消費生活・環境」

(3) 消費生活・環境についての課題と実践

＜3学年間で1以上を選択＞

高校では、「D ホームプロジェクトと学校家庭・クラブ活動」として履修する



【4】それぞれの校種で目指す資質・能力

小学校… 「生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」

中学校… 「よりよい生活の実現に向けて、これからの生活を展望し、生活を工夫し創造する資質・能力」

高等学校… 「様々な年代の人と交流し相互に支え合う社会の構築に向けて、生涯を見通し、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力」



生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立（の基礎として）に必要なもの

【5】各校種・学年の全時数からみた1週当たりの家庭科の時間

小学校 … 5年（ ）時間 6年（ ）時間
 1週（ ）時間 1週（ ）時間

中学校 … 1年 35 時間
 2年 35 時間
 3年 17.5時間

高等学校 … 家庭基礎（ ）時間
 家庭総合（ ）時間 1週（ ）時間
 （普通科の場合。どちらか学校が選択）



異校種の時数把握も「校種間の接続」の意識化につながります

【6】指導要領の小中における学習内容の具体

特にも… B「衣食住の生活」

【食】

- 生の魚や肉 … 小学校「扱ってはいけない」 中学校「扱うこと」
- 調理法 … 小学校「 」 中学校「 」

【衣】

- 衣服の手入れ … 小学校「 」 中学校「 」
- 洗濯 … 小学校「 」 中学校「 」

【住】

- カビ・ダニなどの扱い … 小学校の「通風」「換気」や「清掃」との関連
- 音 … 小学校の快適な住まい方の中で扱う



学習内容の把握を把握し、学習が重複しないようにしましょう

最後に…



総則より「小学校学習指導要領及び高等学校
学習指導要領を踏まえ、小学校教育及び
その後の教育との円滑な接続が図られるよう
工夫すること」

中学校は小学校と高校をつなぐ要です…